

Dappe

地域おこし協力隊の鋸南ぐらし

2

2020

うっちゃやれ、シテイライフ。



地域おこし協力隊一同

今年もよろしく
お願いいたします。



こんにちは、地域おこし協力隊の室井です。1月号は年末年始の印刷の都合上発行できなかつたので、今年は2月号からとなります。

町中に水仙が咲き誇っていますね。台風の被害もあったので心配していたので見られて嬉しいです。

先日フォトウォークを開催した際に江月の水仙ロードを歩きました。昔は水仙を買い、リュックに挿して歩くのが流行っていたと聞いたので真似してみました。こういうひと工夫、楽しいです。

水仙は順光で見るといいのですが、逆光で見ると、花だけ白く光って、浮かび上がって見えるので好きです。是非見比べてみてください。

Dappe

発行元 鋸南町地域おこし協力隊
住所 AKARI(地域おこし協力隊拠点)
〒299-1902
千葉県安房郡鋸南町保田66-1
執筆 黒澤徹 清水多佳子 室井翼

獣害

コラム

こんにちは！地域おこし協力隊の黒澤です。

「野生動物管理(ワイルドライフ・マネジメント)」という言葉があります。これは欧米では長い歴史を持つ学問分野です。この「野生動物管理(学)」に「人間との軋轢の調整」という問題を扱う分野として「被害管理」があります。「被害管理」にはその対象が大きく3つあるといわれています。

一つ目は、被害を出している野生動物そのもの。二つ目は被害が発生している場所や被害を出している野生動物の生息環境。三つ目は被害を受けている人間、あるいは被害管理を行うべき人間側の行動です。被害対策がうまくいっていないなら、人間側のうまくいかない理由や原因を考えようという視点です。

自動車の交通事故や航空機の事故防止研究などの分野で1970

年以降急速に採用されてきた考え方もあります。自動車事故は人間が自動車を運転する限りなくならないことと同様に、野生動物がいて被害の対象となる農林地がある限り、何も対策をしなければ被害は発生します。ちなみに、被害が発生するのは仕方がないと諦めるのは違います。

被害管理の技術は、(1)被害状況の分析と情報収集(2)農地や集落の環境整備(3)適切な被害防除技術の実施(4)被害管理システムの構築(5)個体数管理と生息地管理、という内容で、ほぼ確立しています。問題はこれらの対策が効果的であるのは分かっ



いても、十分できない人間側の事情があるということです。

例えば、農地を守る柵をしなかったのが原因だと言っても、その理由はいくつも考えられるのです。①柵をすると効果的だなんて考えもしなかった ②イノシシやサルなどは頭が良いので柵をしても無駄だと思っていた ③柵を作る時間がない ④柵を作る体力がない ⑤柵の材料資材を購入するお金がなかった ⑥自分の農地だけを柵で囲うと周りに被害が出るかもしれないのでやめた ⑦もう農業はやめようと思っていた などなど。

「被害対策をしなかったのが原因だ」という観点から一歩踏み込んでこういった被害対策を実施できない人間側の事情とは何か？対策を実施できるような集落のあり方とはどんなものか？

被害対策の情報収集の手法として、「集落環境診断会」の開催というものがありません。これは集落の被害状況についての共通認識を得る機会であると同時に、集落の皆さんが情報共有し、潜在的な集落の機能や価値を改めて発見する機会でもあると思います。



(撮影：地域おこし協力隊 黒澤徹)

水仙まつりイベントの手伝いで知った。

鋸南町の美しさ



江月水仙ロードの様子

地域おこし協力隊の清水です。1月11日、12日、水仙まつりのイベントが町内で開かれ、私もお手伝いで参加いたしました。例年よりも花の咲き具合が遅いとはいえ、たくさんの方の観光客にお越しいただきました。「毎年、水仙を見に来ているので、今年も来ました」という人や「水仙ロードを歩いたあと、笑楽の湯に入ってから帰る」という団体のお客さまとお話をし、ふと気づいたことがあります。「昨年の台風以降、ずっと災害に携わっていて、私自身、

佐久間ダムの様子



(撮影：地域おこし協力隊 清水多佳子)

心の余裕を失っていたのではないかと感じています。

町が災害でどんなにダメージを受けたとしても、自然はいつも通り、あるがままの美しい姿で私たちに感動を与えてくれるものです。台風被害から約5か月。気がつけば、鋸南はいつの間にか春を迎えています。今月で地域おこし協力隊としての任期も、折り返し地点にきます。町の観光のために、これから活動に力を入れていきます。

鋸南復興アクセラレーション

災害に対応する「まちづくり団体」を立ち上げました！

このほど、鋸南町の復興のために活動する団体を立ち上げました。「鋸南復興アクセラレーション」(代表、堀田了誓)です。

昨年の台風15号以降、町外からたくさんの方のボランティアさんにお越しいただき、町は復興に向かい始めています。これからは、町内に住んでいる人が主体となり、町の復興のために動いていく段階にあると感じています。

主な活動としては、(1)町の社会福祉協議会の中で、ボランティアセンターの役割を担います。(2)県外からボランティアを呼び込み、被災した家屋に住んでいる独居高齢者などを支援します。(3)町民向けにカビ取りの講習会などを行います。また、イベント開催など、町の活性化のために動いていきます。

ボランティアのニーズのある方は、町の社会福祉協議会にお問い合わせください。鋸南の新しい復興の形。ぜひ、みなさまと一緒に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

【相談受付時間】9時から16時(平日のみ)

【電話番号】0470-50-1174(鋸南町社会福祉協議会)